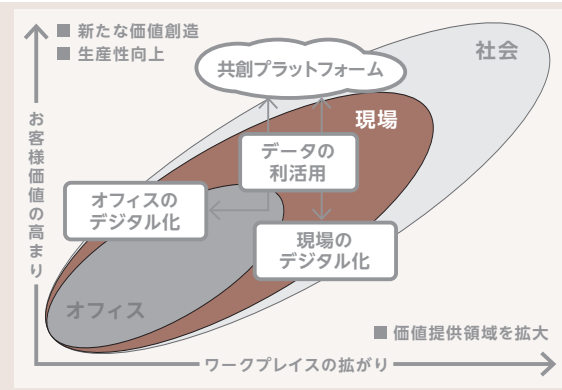


RIS リコーインダストリアルソリューションズ

BUの役割

製造業、物流業などのお客様の現場のデジタル化によって、生産性を向上します。さらにデータの利活用を含めたトータルソリューションで新たな価値の創出に取り組みます。



BUプレジデントメッセージ

リコーインダストリアルソリューションズを構成する五つの事業は、リコーのコア技術から派生しているジオゾ感光紙のケミカル処方・コーティング技術を活用したIMS事業、時計の精密加工技術を活用した精密部品事業、MFPの生産技術を活用した産業機器事業、MFPの電装基盤設計技術を活用したエレクトロニクス事業、カメラの光学技術を活用したオプティカル事業と、すべてリコーのコア技術から派生したものです。

第20次中期経営計画において、各事業は、狙いのセグメントにおいての成長拡大および、経営体質の強化、さらに利益を最大化することに加えて、お客様への新たな価値提供に向けたデジタルサービスの創出へのチャレンジという二つの戦略を掲げています。

リコーグループの産業分野の経営資源を結集し、DXに果敢に挑みます。そしてIMS事業と産業プロダクツ領域の四事業を融合し、リコーグループの大きな柱へ成長させます。また、五つの事業にとどまることなく、最先端技術を有効に活用することで、新たなデジタルサービスの創出に取り組みます。

さまざまな生産活動を行っているお客様の現場で“はたらく”に寄り添い、メディア・ハード・システムを一体化したトータルソリューションで問題・課題を解決すること。その結果として、お客様も、私たち自身も同時に、はたらく喜びを感じる。このサイクルをスパイラルアップさせていきます。それが、私たち自身の継続的な成長につながると確信しています。

森 泰智

リコーインダストリアルソリューションズビジネスユニット プレジデント

CASE STUDY 01

インライン高速印刷ソリューションで可変情報印字を実現 RICOH FC-LDA Printer 500

生産工程向け高速印刷ソリューション「RICOH FC-LDA Printer 500」は、リコーグループの強みである光学技術とサーマル印字技術を応用して開発しました。192個のレーザー光源を高速独立変調駆動させることにより、世界最高速(当社調べ、2022年6月13日現在)の最大毎分300mで可変情報のオンデマンド印刷を可能にし、食品・消費財などの大量生産品の印刷業務効率向上と目的・ターゲットに応じて印刷内容を変える可変印字の両立に成功しました。



花王株式会社の「ヘルシア緑茶α」・「ヘルシア緑茶うまみ贅沢仕立て」のシュリンクラベル裏側に印刷された個別のシリアルナンバーとQRコード*の印刷イメージ

販売開始後の実用化第一弾として、株式会社フジシールが提供する、花王ヘルシアのペットボトル飲料用シュリンクラベルの裏側にキャンペーン応募用の個別シリアルコードやQRコード*を印字するソリューションに採用されました。これにより消費者にさらに良いサービスを提供するために必要な詳細データの取得に加え、花王株



リコーグループ独自のサーマル技術と専用感熱インクを組み合わせることで、環境課題の解決に大きく貢献できる技術を提供できました。今後はトレーサビリティやデジタルマーケティングへ応用し、お客様の現場のデジタル化に貢献できるサービスを展開してまいります。

新井 伸幸

リコーインダストリアルソリューションズBU
IMS事業部 マーケティングセンター SDGs事業室 DS事業開発グループ



印字イメージ:文字だけでなくQRコード*、画像データの可変印字が可能

式会社がESG戦略として掲げているリデュースイノベーション(プラスチック製アイキャッチシールの削減)の推進にも貢献しています。

可変印字による個品IDの付与が可能になることにより、食品や製品の安全性のためのトレーサビリティや真贋判定、一般消費者のより詳細な購買行動データ収集によるデジタルマーケティングへの応用、日用品・食品製造や小売業の現場のデジタル化に貢献するサービスが期待されています。また、お客様から寄せられているご要望にお応えできるようさまざまな包装素材への可変印字にもチャレンジしており、今後多くの現場で可変情報から得られる詳細データの取得・分析が可能になります。これからもお客様の現場ニーズに寄り添い、より付加価値の高いデジタルサービスの創造に挑戦します。

本製品は、国内のレーザー関連産業の発展に貢献したとして、2022年度第14回レーザー学会産業賞の奨励賞を受賞しました。

* QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標です。



CASE STUDY 02

自動車の外観検査現場のデジタル化に貢献 車両外観検査装置

時間関連技術を応用したリコーグループ独自の撮像技術、画像処理技術を搭載した外観検査装置は、これまでは困難だった光沢品検査工程の自動化を実現しました。自動検査装置でデジタルデータを取得することで、より正確な製品トレーサビリティ、不良発生時の早期発生源対策などを可能にします。また、人による目視検査の課題である①検査員スキルの差②時間の経過や疲労などによる無意識下での基準の変化も解消し、製造現場の困りごとである検査工程の負荷軽減、さらには労働人口不足の解消や世界同一品質の実現にも製造現場のデジタル化を通じて貢献しています。

国内有力自動車メーカーと共同開発を進める車両外観検査装置は、従来の検査装置で蓄積したノウハウ、半世紀にわたって培ってきた自動化設備設計技術を組み合わせて広範囲の外観検査を可能にしました。検査装置、車両のどちらかを移動させながら撮像できるのが特徴で、静止した状態に比

べ、検査時間を大幅に短縮しています。

検査結果として、画像およびそこから得た情報(不良位置・サイズなど)をデジタルデータとして蓄積することができ、装置の導入と同時に現場のデジタル化を実現します。また、設備稼働・品質の見える化だけでなく、検査結果を上流工程にフィードバックすることで不具合発生要因を特定し、工程の改善を通して生産効率の向上につなげるデジタルサービスの構築にも取り組んでいます。

車両外観検査装置は海外市場への展開も計画しており、事業の成長を図っていきます。



車両外観検査イメージ